

介護ロボットに関する実用化支援の動向について

- 要介護高齢者の増加や介護期間の長期化など介護ニーズがますます増大する中で、高齢者の自立支援や介護職員の負担軽減を図る観点から、実用性の高い介護ロボットの開発促進は重要な取組である。
- このため、平成24年11月に厚生労働省と経済産業省は、「ロボット技術の介護分野における重点分野」を共同で策定した。
- また、日本再興戦略（平成25年6月14日閣議決定）では、「介護ロボット産業の活性化を実現し、高齢者、障害者等が地域で安心して暮らせるようにする。」ための主要施策として、介護ロボットの急速な普及拡大を図る「ロボット介護機器開発5ヵ年計画」を掲げたところである。
- 厚生労働省は、開発の早い段階からの介護現場のニーズの伝達や啓発等を担当し、経済産業省は、重点分野の機器を開発する企業への補助や機器の安全・性能・倫理基準の作成等を担当することで、両省が密に連携して介護現場に効果的な介護ロボットの開発を推進していくこととしている。
- 今後、これらの介護機器が介護現場において活用され、介護機器を用いたケアの裾野が広がることが想定される。また、その中の一部の介護機器においては、在宅の高齢者の自立支援に資するものとして、介護保険の福祉用具対象化の議論になることも想定される。